

研究テーマ	形や色の特徴や構成の美しさなどを感じ、表し方を構想して、自分なりの表現方法を見つけ、広げていくための工夫 ～第6学年「心の中をのぞいて…」の実践を通して～
-------	--

東海村立舟石川小学校 千葉 美波

I 研究テーマについて

学習指導要領解説の高学年図画工作科の内容A表現（2）イに「形や色，材料の特徴や構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，表し方を構想して表すこと」とあり，「構成の美しさなどの感じ」とは，形や色がお互いに響き合う配置，奥行きを感じや方向感，色の組み合わせによる強さなどが考えられるとしている。しかし，本学級の児童たちは，これまでの図画工作の授業において，校舎や人物など具体物を実際に見て，写実的に描く表現活動はたくさん行ってきているが，形や色の特徴に着目したり，構成の美しさを感じたりする表現活動を十分に行っていない。その結果，絵を写実的に描ける児童は図工を得意と感じているが，本物のように描けない児童はそれだけで図工を苦手と感じている面がみられる。さらに，高学年になると「上手に描こう」「よく見せよう」という思いが先に来るため，のびのびと自由な発想や気持ちで描くより，頭で考えすぎて表現が委縮してしまうこともある。

本研究は，「形や色の特徴や構成の美しさなどを感じ，表し方を構想して，自分なりの表現方法を見つけ，広げていくための工夫」をテーマとしている。これまでは，具体物を写実的に描く表現活動を多く行ってきたが，今回はできるだけ自由な発想で，のびのびと表現活動ができる題材を行い，新たな表現の可能性や視点を広げ，「図工って面白い」という純粋な気持ちを引き出せるようにしたいと考える。さらに，楽しい活動で終わらせることなく，表し方を構想し，創造的な技能も高めさせていきたい。

その手立てとして，まず題材をよく練る必要がある。今回は，形や色の特徴に焦点を絞るために，具体物の表現ではなく，形や線など抽象的なものをモチーフに表現活動を行い，誰もが抵抗感なく取り組めるように工夫する。そして，単純な形や線でも，配置や組み合わせによって無限の表現方法につながることや，色を加えたり，画材を変えたりする仕掛けを加えることで，作品の感じ方が変わる面白さに気づき，自分なりの表現方法を見つけ，広げられるようにする。さらに，活動中の児童のつぶやきや様子をとらえ，本研究のテーマにどれだけ迫ることができているかを明らかにし，今後の学習指導の改善につなげていきたい。

II 研究の実際

- 1 題材名 「心の中をのぞいて…」
- 2 題材の目標

様々な心を形や色で表すことを試み，表現の可能性が広がるおもしろさに気づき，構成を自分なりに工夫して効果的に表現することができる。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、「図工が好き」と感じている児童がほとんどである。特に、工作や立体作品を作ることを好んでいる傾向にある。一方で、「絵が上手に描けない」など絵画表現において、苦手意識を持っている児童もいる。高学年の特徴として、周りと比較し、写実的に描けていれば上手な表現だと決めつけてしまい、自分の作品に自信がもてない児童が多い。中学校に進学するとさらに評価を気にしすぎてしまい、自由に表現する楽しさや、面白さを見失ってしまうのではないかと心配される。まずは、形や線だけでも心を表現できることを実感し、楽しみながら自分らしい表現方法を自ら見つけていける力が必要なのではないかと考える。

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領解説の高学年図画工作科の内容A表現(2)イに「形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと」に関連する内容である。また、B鑑賞(1)イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話したりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること」に関連している。具体的には、自分の気持ち(喜怒哀楽)を、形や線など抽象的なものでそれぞれ4種類に分けて描き、さらに色を加えたり、画材を変えたりして工夫しながら自分の表現方法を見つけていく題材である。また、作品が完成した後、お互いの作品を鑑賞することで、人によって感じ方や表現方法が違う面白さに気付くことが期待できる。

(3) 指導観

まずは、自分の気持ちと十分向き合う時間を設ける。そして、鉛筆のみを使い、自分の気持ちを喜怒哀楽の4種類に分けて、抽象的な形や線で自由に表現する活動を取り入れ、頭で考えすぎではなく、自由にのびのびと表現し、表現する楽しさを味わえるようにする。その際に、何枚もワークシートを用意し、児童が満足いくまで表現活動ができるよう工夫する。その後、自由に描いた形や線をもとに、「心をデザインする」という課題を加え、単純な形や線でも、配置や組み合わせによって多様な表現につながることや、色を加えたり、画材を変えたりすることで自分なりの表現を見つけ、広げさせたい。さらに、完成した作品を鑑賞し、どの表現がどの心を表現しているかを予測し、答え合わせをしていくことで、人によって感じ方が違うことや、様々な表現の仕方があることの面白さに気付かせたい。

4 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
形や色で心を表すことに興味をもって取り組もうとしている。	心が表せるように、形や線、色を試したり、表し方を考えたりしている。	それぞれの心に合わせ、形や線、色、画材などを考え、試行錯誤しながら表し方を工夫している。	自他の作品を見て、表された心を想像し、お互いのよさを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（5時間扱い）

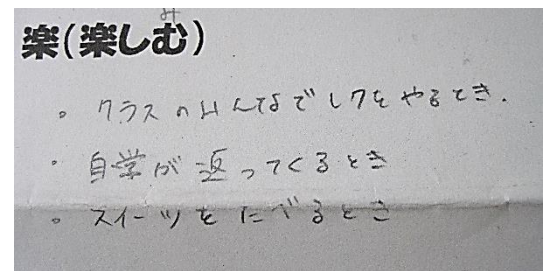
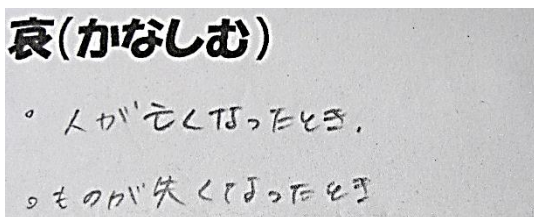
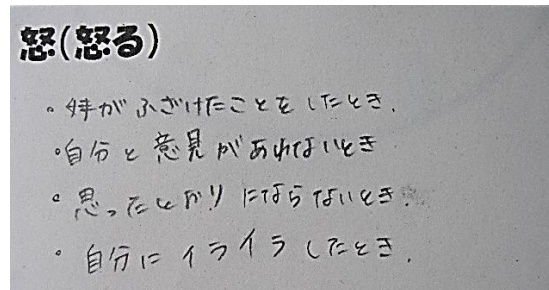
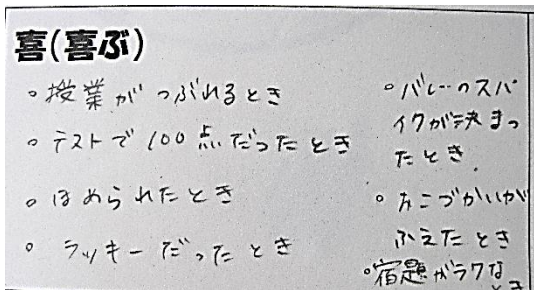
○印は時数

時間	学習内容・活動	主な評価規準・【評価方法】
第1次 ①	形や線だけで心の中の気持ちを表すことができることを知り、試みる。	・形や線でそれぞれの心を表すことに興味をもって取り組もうとしている。 関【観察・ワークシート】
第2次 ③	「心をデザインする」というテーマを加え、前時に描いたワークシートをもとに、線や形を抽出して、4種類の心を描き、さらに色を加える。 前時に描いた心のデザインをもとに、より効果的に伝わりやすくするために、画材を自由に選択し、気持ちを描く。	・心が表せるように、形や線、色を試したり、表し方を考えたりしている。 想【観察・ワークシート】 ・心に合わせて形や線の配置や、色の組み合わせ、画材などを考え、試行錯誤しながら表し方を工夫している。 創【観察・作品】
第3次 ①	お互いの作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。	・自他の作品を見て、表された気持ちを想像し、お互いのよさを感じ取っている。 想【観察・ワークシート】

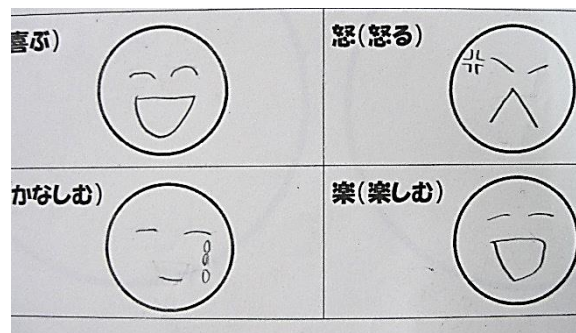
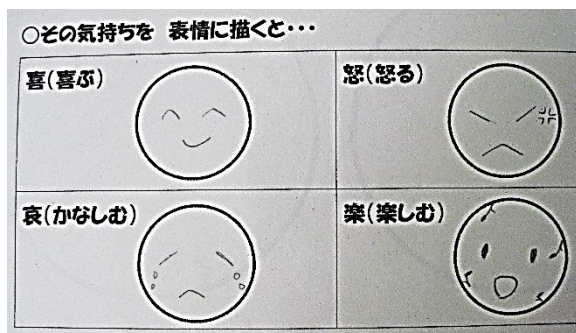
6 指導の実際

第1次 形や線だけで心の中の気持ちを表すことができることを知り、試みる。

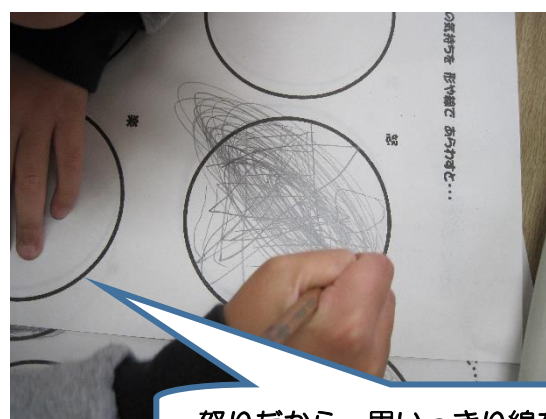
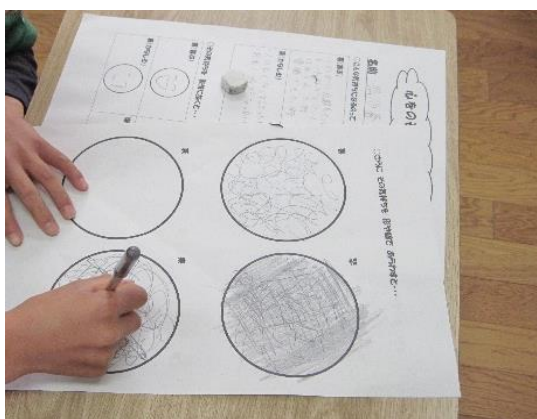
まず、ワークシートに喜怒哀楽の気持ちをもつときはどんな時かを、言葉でたくさん書かせ、それぞれの気持ちを思い出させる活動を行った。



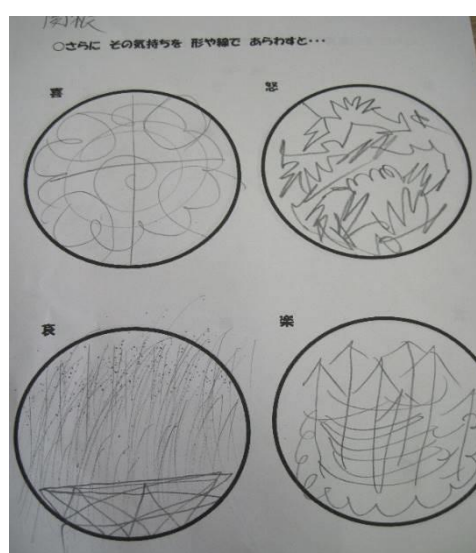
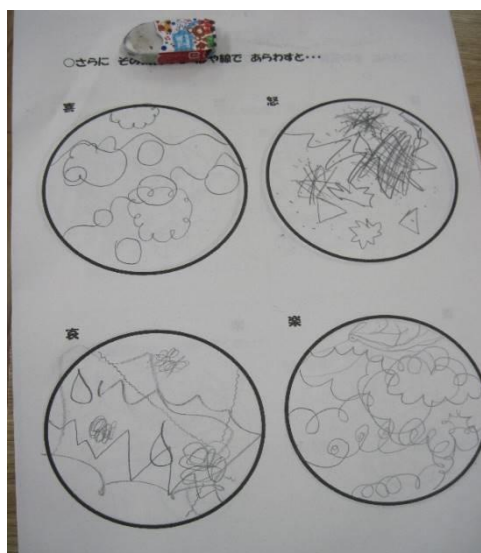
次に、その気持ちを表情で表すとどうなるか、簡単に描かせた。



言葉や顔の表情などで気持ちを表すことはできるが、「線や形だけで表すことはできるか?」と児童に問い、実際にワークシートに描かせていった。

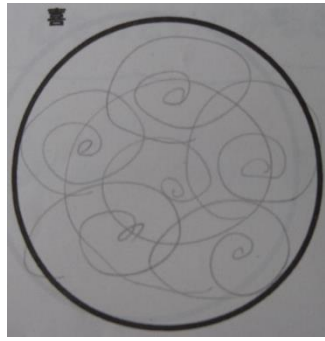
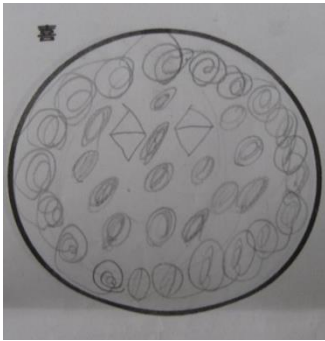


怒りだから、思いっきり線を描こう。



ワークシートの○に「喜怒哀楽」を描いていった。どこから描いてもよいとしたところ、「怒」から描く児童が多かった。また、いつもよりのびのびと活動しており、中には3枚以上のワークシートを使った児童もいた。授業が終わった後、「なんだかすっきりした」という声も聞かれた。

喜



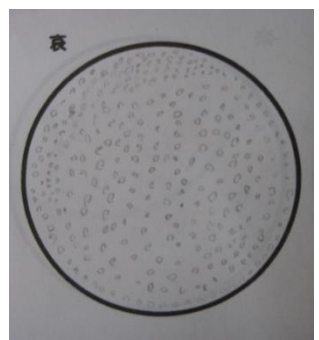
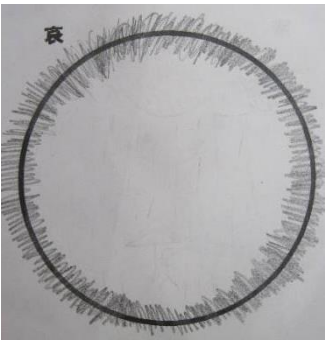
丸をモチーフに描く児童が多く見られた。

怒



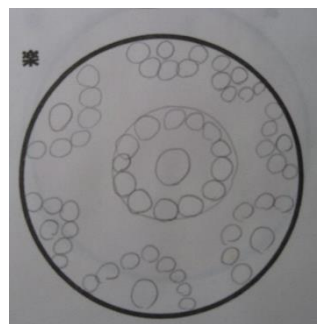
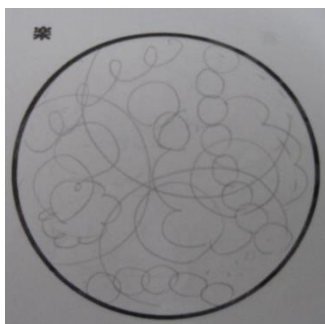
鉛筆を握り、ギザギザの線を思いっきり描く児童が多かった。

哀



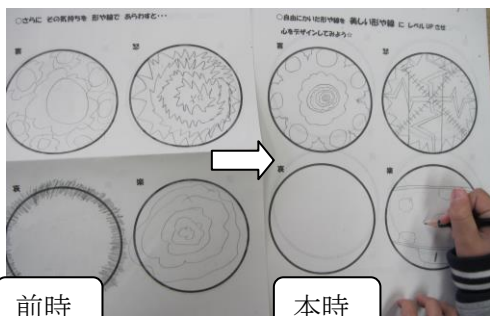
哀しみは児童によって表現方法が違っていた。

楽

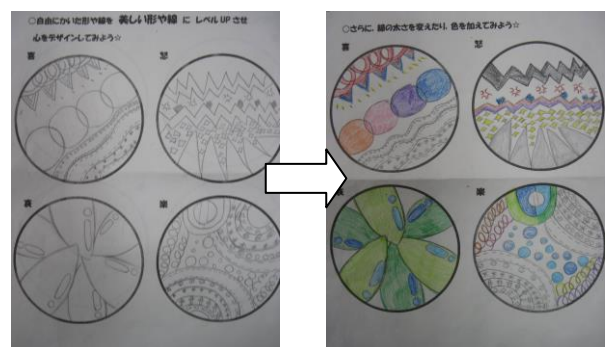


丸みのあるデザインが多く見られた。

- 第2次 ・「心をデザインする」というテーマを加え、前時に描いたワークシートをもとに、線や形を抽出して、4種類の心を描き、さらに色を加える。
- ・前時に描いた心のデザインをもとに、より効果的に伝わりやすくするために、画材を自由に選択し、気持ちを描く。



「心をデザインする」という課題を加え、前時に自由に描いたワークシートをもとに、線や形を抽出し、美しい形や配置を考えて、表現する活動を行った。



そこに色を加えることで、自分の思い描いているイメージに近づけていった。

さらに、画材をクレヨンや色鉛筆、絵の具、ペン、鉛筆から自由に選択し、画用紙に描くことで、自分なりの表現方法を見つけ、広げていけるようにした。



色鉛筆



色鉛筆



絵の具



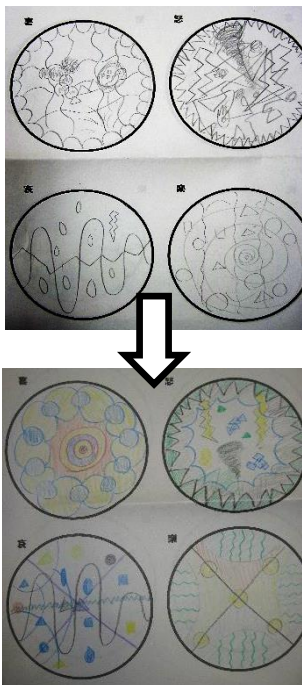
クレヨン



最終的には、この題材名が「心をのぞいてみると」なので、そっと心の中をのぞいているように、丸い形に画用紙を切り取り、黒い台紙貼って完成とした。画用紙を貼る場所は、第3次の鑑賞につなげるため、あえて喜怒哀楽の順ではなく4枚のバランスをみて、美しいと思う配置にするようにした。

< 3人の児童の作品例 >

Aさん



紫色で哀しい気持ちを表した。また、浮き沈みする気持ちを波線で表現した。

怒ると気持ちがとげとげするイメージから、ギザギザを表現した。

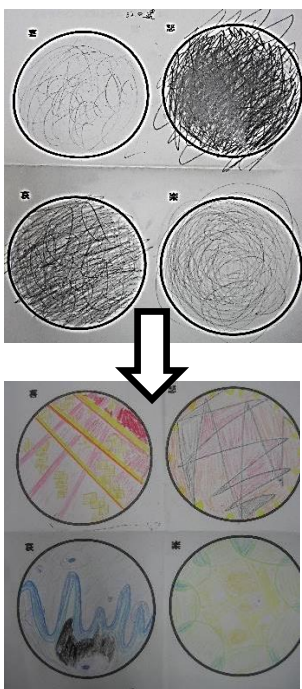


喜ぶと笑顔になるから、はじけるイメージで周りを表現した。

色々な色を使うことで、わくわくする気持ちを表現した。

画材：色鉛筆，絵の具

Bさん



太陽の光が降り注いでいるイメージで、喜びを表現した。クレヨンで描くことで強調した。

下の黒い丸は心に穴が開いているイメージを表現した。

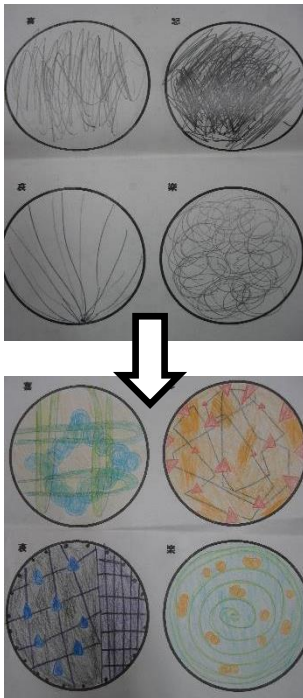


優しい色合いにし、穏やかな気持ちを表現した。心つながっているイメージでぐるぐるの線を描いた。

クレヨンを使うことで、力強い怒りを表現した。

画材：クレヨン，色鉛筆，絵の具

Cさん



哀しみを表現するために、青や水色を使った。

色の濃さを変えることで、気持ちのムラを表現した。三角は怒ってとげとげする心をイメージした。

丸を重ねて描くことで、喜びが重なっていくことを表現した。

2色でぐるぐるを描くことで、楽しい気持ちがたくさんあることを表現した。



画材：クレヨン、色鉛筆、絵の具

第3次 ・お互いの作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。

まずは自分の作品をじっくりみて、「自分の作品紹介カード」を作成する。

○自分の作品について紹介しよう

- どんな工夫をしたの？
- どんな気持ちを描いたの？

<p>喜 喜んでいる時は、心が晴れやかな気持ちになっているので、黄色やオレンジなどの明るい色や丸い形を使ったり、絵の具をうすめて色をぬり、晴れやかな気持ちを表した。</p>	<p>怒 怒っている時は、にこしみやイライラな気持ちになっているので、黒や緑などの暗い色を使ったり、三角形などの角ばった形を使いとげとげしい心、にこしみ、イライラなどの気持ちを表した。</p>
<p>哀 哀しい時は、泣きたい気持ちやぐちゃい気持ちになっているので、色を水色や青を使い、線は丸い線や丸い形を表し、(コッパス) 哀しい気持ちを表した。</p>	<p>楽 楽しんでいる時は、心がワクワクしたよき気持ちになっているので、きみどり色や黄色などの明るい色をうすくして使い、ワクワクしている時は、飛びおたくなるような気持ちになっているので、円を使い、ワクワクした気持ちを表した。</p>

○自分の作品について紹介しよう

- どんな工夫をしたの？
- どんな気持ちを描いたの？

<p>怒 おこりたくなったり、いやな気分になったり、しゃべりたくなったりするところがあるから、それらの気持ちをとげとげ模様をたくさんかき、赤黒の色を主に使った。</p>	<p>楽 楽しいと男の子理由はたくさんあるから、いろいろな色を使って模様を書き、楽しい気持ちをイメージして丸をたくさんかいた。</p>
<p>喜 うれしいをほじけた感じにして、線の一本一本をほっきり書いた。</p>	<p>哀 自分の中々悲しい気持ちをイメージは、しんみりしているもの。だから背景を、色鉛筆を回しながら水色で書き、しんみりしているようにした。</p>

次に、3人1組のグループを作り、お互いの作品を鑑賞し、どれがどの心（喜怒哀楽）を表現しているのか解説し、ワークシートに記入する。その際に、できるだけ具体的に、「どこが、どう描かれているから、どう感じた」と記述するようにした。



それぞれの作品について、どのように解説したのかを発表し合い、答え合わせをし、お互いに関心があることに気付くようにした。その際に、ワークシートをもとに、作品をじっくり見ながら、どこから、どのような事を感じ取ったのかを明確にして話し合いを進めるようにした。



児童の振り返りより

- ・自分と相手の感じ方がちがいで、面白いと思った。
- ・いろいろな心表現する方法があり、なるほどと思った。
- ・同じ「喜怒哀楽」を表現したのに、それぞれ个性的で、感じ取るのが楽しかった。

Ⅲ 研究成果と課題

1 成果

- (1) 今回の研究テーマに「形や色の特徴や構成の美しさなどを感じ、表し方を構想して」とある。そのテーマに迫るために、具体物の表現ではなく、形や線など抽象的なものをモチーフに表現活動を行ったことで、単純な形や線でも、配置や組み合わせによって美しい表現になることが実感できた。また、ワークシートを活用し、最初から美しい形を目指すのではなく、初めは感じるままに表現し、次に美しい形に「デザインする」という流れを段階的に進めたことによって、活動の流れの中で児童が自然に形の美しさを感じ、表し方を構想することができた。さらに、研究テーマに「自分なりの表現方法を見つけ、広げていくための工夫」とあるが、美しい形を構成した後に、色を加えたり、画材を自由に変えたりと表現の幅を広げたことで、児童が自分なりに考え、試し、感じたままに表現をすることができた。図画工作の授業では、材料や画材が限定されるものも多くあるが、単に授業者の都合で制限しては児童の表現の幅は広がらない。今回の研究のように、ある程度児童が自ら考え、工夫できる部分を残しておくことが児童の発想や表現を広げる鍵になるのではないかと感じた。しかし、単に自由にするのとは違い、あくまでも授業の狙いがあった上でどんな力を児童に付けさせたいのかを明確にし、教師側は題材や画材を吟味して、仕掛けていくことが大切であると感じた。

<児童のアンケートより>

① 抽象的なものを使って心表現して感じたことはなんですか。

- ・線や形だけで心の様子が表現できることが分かり、面白かった。
- ・線の太さや、形の大きさを変えるだけで、こんなにも表現が変わることに驚いた。
- ・人によって表し方が違っていて、面白かった。
- ・線や形を同じ様に使っても、人によって無限の表現があることに驚いた。

② 画材や色を自由に選んで心表現してみても感じたことはなんですか。

- ・色を付けるとさらに、自分の表現したい心に近づくのが面白かった。
- ・画材を組み合わせることで、新たな表現方法が生み出せて楽しかった。
- ・色を加えることで作品の印象が変わり、色の力はすごいと思った。
- ・画材を自由に選択でき、自分で工夫しながら表現できた。

- (2) 鑑賞では、ただ作品を見るだけでなく、「作品から心を読み取る」という視点を与え行った。その結果、友達の作品をじっくり見て「これは『喜』かな。色が明るいし、形も全体的に丸いから」「これは『怒』かな。とげとげしい形や線が怒りを表しているように感じるよ。」など具体的に作品の線や形、色や画材の様子から作品を鑑賞することができた。さらに、ワークシートに書いて終わりではなく、友達同士で会話をしながら作品を鑑賞していくことで、表面的な絵の見方にとどまらず、作者の思いや意図など深い部分まで作品を味わうことができた。普段の図画工作の授業の鑑賞はどうしても作品を見て、ワークシートを書いて終わりになってしまうことが多いが、それでは一方通行の鑑賞になってしまう。作品の見る際の視点を与え、じっくり見てどう感じたのかを友達や作者と交流することで、人によって感じ方や表現方法が違う面白さに気付くことができる。今後の授業でも、活かしていきたい。

2 課題

- (1) 抽象的な形の認識が児童にとっては難しく、なかなか活動が進まない児童もいた。抽象的な形で美しいと感じるデザインをいくつか紹介すると、もっとイメージが膨らんだかもしれない。
- (2) 参考作品を作り提示したところ、どうしてもその作品に引っ張られている児童が数人いた。今回は1種類しか提示しなかったため、偏ってしまったが、できれば参考作品はいくつか用意するといろいろな表現方法に気付くきっかけになるのではないかと思った。ただし、児童の実態や学年によっては、あまり参考作品を提示しないほうが良い場合もある。単に示すのではなく、タイミングや意図を考えて提示することが大切である。
- (3) 児童の活動のプロセスを、適切に評価できなかつた面があった。どの時間にどの観点を評価するのか評価基準をもとに、適切に評価していきたい。

参考文献

「小学校学習指導要領解説 図工編」 文部科学省 平成20年8月